



## 日本糖尿病協会 新理事長に清野裕先生を再選

平成 26 年 6 月 吉日

公益社団法人日本糖尿病協会（所在地：東京都千代田区）は、5 月 24 日に開催した平成 26 年度第 2 回理事会において、平成 26・27 年度の代表理事（理事長）に 清野裕先生（せい の ゆたか／関西電力病院 院長）を再選しました。清野先生は、平成 16 年に初めて理事長に選出されて以来、5 期・10 年連続で理事長を務めており、今回の再選で 6 期目を迎えます。

節目の 10 年が経過し、日本糖尿病協会のさらなる発展を見据えて、清野理事長は、今期の活動に新たに 4 つの目標を掲げました。

### 1. 就労者の糖尿病教育

働き盛りの 30～40 歳代は、現実問題として未受診や治療中断が多く発生しています。この世代は、発症すると長期間の加療が必要で、治療を放置すると合併症リスクも高まることから、医療費などの社会保障の面からも対策が急がれます。当協会では今年度、就労者支援に関する委員会を設置し、各地の医療機関や健康保険組合と連携して、就労者を対象とする糖尿病の知識啓発を行います。

### 2. 医療と介護の連携

高齢社会における糖尿病の問題として、地域で在宅医療を担うかかりつけ医と介護支援者の連携が重要になっています。また、現在の法制度のもと、糖尿病患者が医療と介護の狭間に落ち込み、適切なケアを受けられない事例が生じています。そこで、当協会は、日本介護支援専門員協会と連携して、介護支援者の糖尿病教育や、医療者と介護支援者の情報交換をスムーズにする仕組みづくりを行い、全国展開を目指します。

### 3. 医療者教育

糖尿病診療において、患者教育が成功すれば治療は半分成功したといえます。そのため、患者さんに適切な指導ができる医療者を育成することを目標とし、「糖尿病カンバセーション・マップ<sup>TM</sup>」の普及や学術集会の開催などの学びの場を提供します。

### 4. 調査研究の推進

糖尿病治療の現場では、従来の食事・運動療法では対応しきれないケースが増えており、薬剤を適切に使用した治療が必要になっています。今年、糖尿病分野では、新たな作用基序を持つ薬剤の発売が相次ぎます。こうした薬剤が適切に使用され、患者さんにとって治療の選択肢が増えるよう、公益性のある団体として調査研究を推進し、医療の進歩に貢献します。

**PRESS RELEASE**

清野理事長が 10 年間に実施した主な施策は次のとおりです。

組織の基盤強化	個人で気軽に入会できる「本部会員制度」の制定	平成 16 年
	医療関係企業などの民間活力導入を目指した「企業委員会」設置	平成 17 年
	会費の見直しによる財務体質強化	平成 22 年
糖尿病医療環境の向上	糖尿病を専門としない医師の教育を目指した「日糖協登録医制度」発足	平成 18 年
	医科歯科連携を目指した「日糖協歯科医師登録医制度」発足	平成 19 年
	糖尿病薬に関する調査研究の開始	平成 19 年
	地域の医療連携を促進する「糖尿病連携手帳」制作、配布	平成 22 年
	地域で活躍する糖尿病療養指導士の育成支援「CDE ネットワーク」発足	平成 24 年
	糖尿病チーム医療に携わるスタッフ教育の場「日本糖尿病協会学術集会」実施	平成 25 年
市民への糖尿病啓発	「HbA1c 認知向上運動」での知識啓発	平成 18 年
	「世界糖尿病デー」での糖尿病予防啓発	平成 19 年
	SNS (facebook)を利用した情報発信	平成 25 年

こうした活動が評価されて、平成 25 年には公益社団法人格を取得することができました。これからも日本糖尿病協会の活動にご注目ください。

以上

(清野裕理事長 略歴)

昭和 42 年 京都大学医学部卒業

昭和 52～54 年 ワシントン大学 (シアトル) 代謝・内分泌科  
(Prof. Daniel Porte Jr.)客員研究員

平成 8 年 京都大学大学院医学研究科 糖尿病・栄養内科学教授

平成 16 年 関西電力病院病院長 (同上辞任)

平成 16 年 京都大学名誉教授 日本糖尿病協会理事長

平成 21 年 アジア糖尿病学会 (AASD) 理事長

\*\*\*\*\*

**◇本件に関するお問い合わせ◇**

公益社団法人日本糖尿病協会 担当：堀田  
〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-2-4 8F  
TEL : 03-3514-1721 FAX : 03-3514-1725  
E-mail : hotta@nittokyo.or.jp